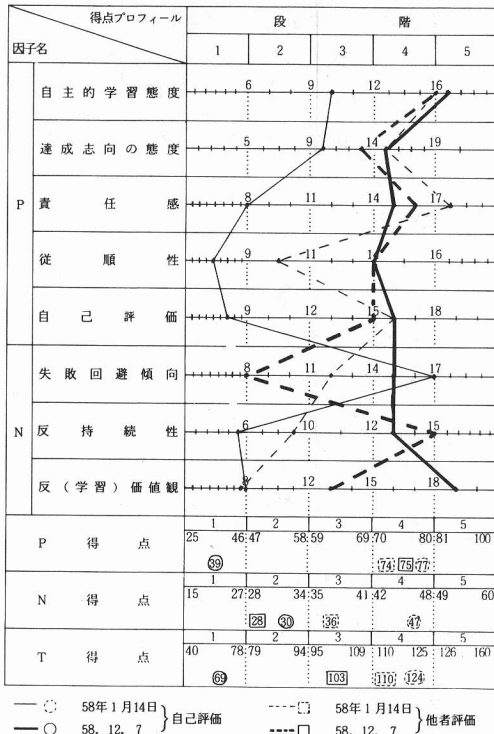


事例10 中学3年J生徒(女子)

1. 学習意欲検査からみた生徒像



- 生徒は、学習の目的や価値を一応理解し、積極的に学習に取り組もうとしているが、意外に長続きしていない。また、教師の指導を適切に生かしていない。失敗回避傾向が高いのはテストの結果のみに執着することを示す。
- 教師は生徒より高く評価し、その差とばらつきを大きくしている。学習に積極的に取り組んでいると考えているものの、目的意識をもち継続して努力する態度を問題としている。

2. 学習意欲の背景

(1) 知能・学業

教研式知能検査SS50、学業成績は下位。教科による成績の差が大きい。

(2) 性格検査(YG) AD型

非協動的、支配性大、社会的外交大。かなり自己中心的である。感情のゆれも大きい。

(3) 問題傾向予測検査(DAT)

感情的で衝動的。気分が変わり易い。

(4) 親子関係診断検査など

母親は一見教育熱心であるが拒否型である。

父親は母親の養育態度を不安に感じている。

(5) 担任の所見

テストの結果に執着する。日常の学習の積み重ねがなく、授業への集中力も乏しい。また、自己統制力が弱い。自己を必要以上によく見せようとする傾向を持つ。集団において協調性に欠ける言動が多い。

3. 心理的治療の仮説と方法

学習の目的と必要性を十分に理解させ、学習意欲の積極的因子を高める。

- 教科に応じた学習のしかたを工夫させ、計画的に学習に取り組ませる。(カウンセリング的アプローチ、行動療法的アプローチ)
- 教師とさらによい人間関係をつくり上げることを通して、集団の中での自己のあり方を改善させる。(カウンセリング的アプローチ、自律訓練法、ロール・プレイング、読書療法)
- 進路の選択などにあたり、家族がその役割に応じてよい援助者となるよう働きかける。

4. 治療の実践

(1) カウンセリング的アプローチ

- 「2年生のときに下降した成績を回復したいと考えている。」の発言があった。以後、短時間のカウンセリングを継続した。
- 5教科の教科書を揃え、それをもとに学習計画をたて提出するよう求めたが、「やりました」の返答のみで、実際には提出しなかった。
- 「同じことを繰り返して勉強しません。」
- グループ活動で自分の考えに合わないことがあるとカーッとするようだがの質問に、「自分でも自分を押える力が弱いと思っています。」
- 1学期末の定期テスト後、「思うように上がらないので少し気落ちしています。」
- 「勉強の時間を増やしました。」というが、やっているふりのようである。